定点観測

名古屋

◆八月に考える過去の戦争と今の戦争

八月といえば、戦争について思いをめぐらす季節。愛知では「平和のための戦争展」が毎年ひらかれます。私達もそこに参加して展示を行いました。今年は一一日から四日間にわたり開かれました。毎年開かれるといっても、簡単なことではなく、主催者には多くの努力があるものと想像されます。今年は、河村たかし市長が南京虐殺を否定した発言をしたことを受けて、「南京虐殺はなかったのですか？」というテーマでの特別展示や講演もありました。

過去の戦争と今の戦争をあつかう展示会です。過去の戦争（日中戦争、太平洋戦争）の記録と記憶を表し続けることは、戦争の愚かさ、悲惨さをリアルに訴えます。

そして私達があつかうのは、今の戦争です。今年の展示は、「東京湾に浮かぶふたつの原子炉・ジョージ・ワシントン」、「新防衛大綱と自衛隊南西諸島への配備」「野田政権下での平和理念をになう諸原則の解体」です。ジョージ・ワシントンについては原発について考えるなら原子力空母についても考えましょうということで、横須賀の人たちにも協力していただいて製作したパネルを展示。私達の展示のなかではたちどまる人が多くいました。やはり福島の原発「事故」以来原子力・核には関心は高いという感じです。福島以後、脱原発の運動はもりあがっていることは事実ですが、その背後ですすんでいることにも目をむけていかなければなりません。昨今の「尖閣・釣魚台」、「竹島・独島」につながるナショナリズムの高揚。それの背後には新防衛大綱の路線があることはあきらかです。

また、これだけの反対にもかかわらず、原発を再稼働していく背景には、シャープなどの家電企業が苦境にあるなか、プラントを手掛ける企業、つまり軍需産業の生き残りのため、「武器輸出3原則」、「宇宙基本法」「原子力基本法」の改悪があるということなのでしょう。今年はこれをテーマにしました。

（八木巌／不戦へのネットワーク）

沖縄

◆米・日の〝配備〟はお断わり！

真夏の暑さと週末毎の台風も一段落したこの頃、街中に出ると「オスプレイ配備県民大会」の宣伝カーと行き合う。お誘いかと思いきや、「あれは共産党の集会だから行かないように～」と参加拒否の呼びかけである。

米国が事故原因を人為的ミスに限定する強引さと相まって森本防衛相が強調する〝日本側の独自調査〟の怪しさのせいで、どの様に危険なのかが県民のよく知るところとなっている。百歩譲って機体に欠陥なしとしても、パイロットが大変な緊張を強いられながら操縦する、その下で生活を営む者の恐怖感は計り知れない。元より安全な機体であっても他国の民衆を撃ちに行く米軍機と基地はあってはならない。県民大会後も島尻の南風原町は独自で集会を開き配備中止まで継続した闘いを目指す。このような動きはこれまでなかったことだ。どうしたら配備を止められるか？　あちこちで、じんぶん（知恵）を働かそうとしている。

中国を意識した米国の戦略に合わせて日本政府は南西諸島の防衛を与那国から形づけようとしている。自衛隊誘致の賛否を問う住民投票条例制定を求める署名数は最終的に五四四名となり九月三日に町長に請求予定という。町民主権に基づいた手続き進行中にも拘らず、森本防衛相の「配備は省内で決めた方針。住民にも意見があるのは承知するが、町長、議会と連携して進めたい」発言は住民無視もいいところ。彼らの言う島嶼防衛は領土防衛に他ならず住民を守ることとは掛け離れている。台湾の花蓮と姉妹的友好を深めるなど平和を保とうとする与那国町民の意思こそ尊重されねばならない。与那国の問題は全国の問題であると、八重山から地区労協議会や「いしがき女性9条の会」が意見広告運動を呼びかけている。「政府は地元与那国、八重山住民の意見を踏まえ沿岸監視部隊配備計画を中止、撤回することを求めます」の主旨で九月中旬に八重山毎日・日報の二紙に掲載する予定。

（島尻まーじ）